



初めて知ったことが多かった スタディツアーで学んだ 『平和』と『人権』

福禅寺 対潮楼のようす ホロコースト館長さんが説明している様子

今年度のフィールドワークは、一泊二日の日程で広島県福山市を訪問し、兵教組からは12人が参加した。福山には、日本で初めてつくられた「ホロコースト記念館」がある。現在の館長が、「アンネの日記」の作者であるアンネ・フランクさんの父、オットー・フランクさんと出会われたことをきっかけにつくられたものだそう。丁寧に説明をいただき、一つひとつの展示について丁寧に説明をいたしました。また、次に訪れた福山市平和人権資料館でも、ただ展示を見るのではなく詳細な解説をしていただきたい。

この資料館には、「平和」と「人権」の2つの展示室があるが、どちらも、私たちの生活にとって欠かせないものであることを再確認する時間となつた。

二日目は、鞆の浦を訪問した。観光地として名高い場所もある。朝鮮通信使は十二回訪日しているが、そのルートは毎回ほぼ同じだったらしい。

釜山から船内海に入り、下関から瀬戸内海に入り、大坂

が今後の活動に生かしている。

教員間で世代間継承に努め、教員を平和教育実践に参加してもらう必要性を確

認した。

本冊子が提案する平和教

育実践では、風化しないよ

うに戦争体験継承を続けて

いくことで子どもたちを過去の戦争とつなげ、子ども

たちに戦争に対する当事者意識（自分ごと）を育てる

目的を持つている。戦争を加害と被害の視点から複眼的に見る力を育て、さらに

戦争を防ぐ方法を考える。

これから平和教育で過去の戦争を学ぶだけ

ではなく、過去と今のもの（モノや人）をつなぎ、子ども

が、そのルートは毎回ほぼ同じだったらしい。

釜山から船内海に入り、下関から瀬戸内海に入り、大坂

が今後の活動に生かしている。

教員間で世代間継承に努め、教員を平和教育実践に

参加してもらう必要性を確

認した。

本冊子が提案する平和教

育実践では、風化しないよ

うに戦争体験継承を続けて

いくことで子どもたちを過去の戦争とつなげ、子ども

たちに戦争に対する当事者意識（自分ごと）を育てる

目的を持つている。戦争を加害と被害の視点から複眼的に見る力を育て、さらに

戦争を防ぐ方法を考える。

これから平和教育で過去の戦争を学ぶだけ

ではなく、過去と今のもの（モノや人）をつなぎ、子ども

が、そのルートは毎回ほぼ同じだったらしい。

釜山から船内海に入り、下関から瀬戸内海に入り、大坂

が今後の活動に生かしている。

教員間で世代間継承に努め、教員を平和教育実践に

参加してもらう必要性を確

認した。

本冊子が提案する平和教

育実践では、風化しないよ

うに戦争体験継承を続けて

いくことで子どもたちを過去の戦争とつなげ、子ども

たちに戦争に対する当事者意識（自分ごと）を育てる

目的を持つている。戦争を加害と被害の視点から複眼的に見る力を育て、さらに

戦争を防ぐ方法を考える。

これから平和教育で過去の戦争を学ぶだけ

ではなく、過去と今のもの（モノや人）をつなぎ、子ども

が、そのルートは毎回ほぼ同じだったらしい。

釜山から船内海に入り、下関から瀬戸内海に入り、大坂

が今後の活動に生かしている。

教員間で世代間継承に努め、教員を平和教育実践に

参加してもらう必要性を確

認した。

本冊子が提案する平和教

育実践では、風化しないよ

うに戦争体験継承を続けて

いくことで子どもたちを過去の戦争とつなげ、子ども

たちに戦争に対する当事者意識（自分ごと）を育てる

目的を持つている。戦争を加害と被害の視点から複眼的に見る力を育て、さらに

戦争を防ぐ方法を考える。

これから平和教育で過去の戦争を学ぶだけ

ではなく、過去と今のもの（モノや人）をつなぎ、子ども

が、そのルートは毎回ほぼ同じだったらしい。

釜山から船内海に入り、下関から瀬戸内海に入り、大坂

が今後の活動に生かしている。

教員間で世代間継承に努め、教員を平和教育実践に

参加してもらう必要性を確

認した。

本冊子が提案する平和教

育実践では、風化しないよ

うに戦争体験継承を続けて

いくことで子どもたちを過去の戦争とつなげ、子ども

たちに戦争に対する当事者意識（自分ごと）を育てる

目的を持つている。戦争を加害と被害の視点から複眼的に見る力を育て、さらに

戦争を防ぐ方法を考える。

これから平和教育で過去の戦争を学ぶだけ

ではなく、過去と今のもの（モノや人）をつなぎ、子ども

が、そのルートは毎回ほぼ同じだったらしい。

釜山から船内海に入り、下関から瀬戸内海に入り、大坂

が今後の活動に生かしている。

教員間で世代間継承に努め、教員を平和教育実践に

参加してもらう必要性を確

認した。

本冊子が提案する平和教

育実践では、風化しないよ

うに戦争体験継承を続けて

いくことで子どもたちを過去の戦争とつなげ、子ども

たちに戦争に対する当事者意識（自分ごと）を育てる

目的を持つている。戦争を加害と被害の視点から複眼的に見る力を育て、さらに

戦争を防ぐ方法を考える。

これから平和教育で過去の戦争を学ぶだけ

ではなく、過去と今のもの（モノや人）をつなぎ、子ども

が、そのルートは毎回ほぼ同じだったらしい。

釜山から船内海に入り、下関から瀬戸内海に入り、大坂

が今後の活動に生かしている。

教員間で世代間継承に努め、教員を平和教育実践に

参加してもらう必要性を確

認した。

本冊子が提案する平和教

育実践では、風化しないよ

うに戦争体験継承を続けて

いくことで子どもたちを過去の戦争とつなげ、子ども

たちに戦争に対する当事者意識（自分ごと）を育てる

目的を持つている。戦争を加害と被害の視点から複眼的に見る力を育て、さらに

戦争を防ぐ方法を考える。

これから平和教育で過去の戦争を学ぶだけ

ではなく、過去と今のもの（モノや人）をつなぎ、子ども

が、そのルートは毎回ほぼ同じだったらしい。

釜山から船内海に入り、下関から瀬戸内海に入り、大坂

が今後の活動に生かしている。

教員間で世代間継承に努め、教員を平和教育実践に

参加してもらう必要性を確

認した。

本冊子が提案する平和教

育実践では、風化しないよ

うに戦争体験継承を続けて

いくことで子どもたちを過去の戦争とつなげ、子ども

たちに戦争に対する当事者意識（自分ごと）を育てる

目的を持つている。戦争を加害と被害の視点から複眼的に見る力を育て、さらに

戦争を防ぐ方法を考える。

これから平和教育で過去の戦争を学ぶだけ

ではなく、過去と今のもの（モノや人）をつなぎ、子ども

が、そのルートは毎回ほぼ同じだったらしい。

釜山から船内海に入り、下関から瀬戸内海に入り、大坂

が今後の活動に生かしている。

教員間で世代間継承に努め、教員を平和教育実践に

参加してもらう必要性を確

認した。

本冊子が提案する平和教

育実践では、風化しないよ

うに戦争体験継承を続けて

いくことで子どもたちを過去の戦争とつなげ、子ども

たちに戦争に対する当事者意識（自分ごと）を育てる

目的を持つている。戦争を加害と被害の視点から複眼的に見る力を育て、さらに

戦争を防ぐ方法を考える。

これから平和教育で過去の戦争を学ぶだけ

ではなく、過去と今のもの（モノや人）をつなぎ、子ども

が、そのルートは毎回ほぼ同じだったらしい。

釜山から船内海に入り、下関から瀬戸内海に入り、大坂

が今後の活動に生かしている。

教員間で世代間継承に努め、教員を平和教育実践に

参加してもらう必要性を確

認した。

本冊子が提案する平和教

育実践では、風化しないよ

うに戦争体験継承を続けて

いくことで子どもたちを過去の戦争とつなげ、子ども

たちに戦争に対する当事者意識（自分ごと）を育てる

目的を持つている。戦争を加害と被害の視点から複眼的に見る力を育て、さらに

戦争を防ぐ方法を考える。

これから平和教育で過去の戦争を学ぶだけ

ではなく、過去と今のもの（モノや人）をつなぎ、子ども